

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 二俣川教室

保護者等数(児童数)45名

回収数 19枚

割合 42%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	3		1	少し狭いと感じる時もある。	動きのある児童が多い場合は、部屋を分けて活動できるようにしていく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16	1		2	教室の中を見たことがないので分からない。	随時保護者様のご要望に合わせて見学を受け入れていく。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14	2		3	段差が多少ある。	入り口やトイレなど、上り下りが難しい児童がいる場合は、マットを敷くなどして環境を整えていく。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	19					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	16	3			工作ができる時を楽しみに待っています。	曜日や児童の年齢などに合わせて活動内容を決めていく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	2	7	7	分からない。 無いように思う。	交流の機会を検討していく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17	2			契約する時に説明があった。	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	1			送迎時や連絡帳で話を聞いている。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	1			面談時に相談を聞いてもらっている。 送迎時やメモなどでアドバイスをもらっている。	
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	5	3	2	昨年12月に保護者会が開催された。	定期的な保護者会の開催を検討していく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	15	2		2	苦情ではないが、電話のみの連絡は難しいと感じています。LINE等の情報伝達を求めています。	ネットやアプリなどの連絡ツールの検討をしてみてもどうか。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18			1	送迎時や連絡帳で話をしている。	
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	14	2		3	こぼんはうすだよりを買っている。 写真を印刷して貰うのはありがたいが、データでも貰えるとありがたい。	デジタルツールでの情報共有を検討してみてもどうか。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	18	1			忘れ物などの対応をしっかりとっている。	渡し間違いや忘れ物などが無いように帰宅前に確認していく。
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15	2	1	1		マニュアルについて保護者様に周知されていないのでどう公表していくか検討する。
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	18			1	避難訓練の実施が連絡帳で記入されている。	
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	16	2		1	先生に会えることを子どもが毎週楽しみにしています。	
	18 事業所の支援に満足しているか	17	2			親子ともどもお世話になって助かっています。	

275 31 11 24

81%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 こばんはうすさくら 二俣川教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	3	利用人数が多い際は、活動的に過ごす部屋と静かに過ごす部屋で分けている。	定員15名全員一つの部屋は狭すぎる。
	2 職員の配置数は適切である	12		連絡帳を記入する職員と、児童の様子を把握している職員と分けるよう意識している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	8	教室とトイレの入り口に段差があるが、必要に応じて介助している。視覚支援の教材を用意している。	段差やドアの広さはバリアフリー化できていない。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	4	業務軽減などの見直しができている。	正社員とパートとの差があり、パートは参画できていない気がする。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		アンケート以外にも、送迎時や面談などで個別に意見や相談を受け、業務改善に取り組んでいる。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	8		外部評価は行ってないと思う。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	5	研修動画視聴や協議会などへの参加をしている。療育に有益な情報共有を随時している。	外部研修の資料や情報を知る手段があると良い。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12		保護者の意向だけでなく、児童との面談も始めている。面談での聞き取りや情報を職員間で周知し、作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	2	アセスメントシートを使用し、児童の適応行動の状況を把握に努めている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	11	1	プログラムの割り振りを表にして、日替わりで担当職員が替わり内容を考えている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12		活動内容を記入し確認できるよう表に記録しているので、内容が重ならないように考慮している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11	1	イベントなどの企画をしたり、長期休暇は時間をかけて活動できるものを提供している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12		子どもの状況により、その日の個別活動や集団活動を立案している。集団活動では個別の配慮をしている時もある。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	4	気づいたことがあればその都度情報共有している。プログラム内容や時間配分など相談、調整している。	送迎前に職員が全員集まれる時間の余裕がないことが多いので、必ずの打ち合わせはできていない。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	7	5	全員で情報共有できるよう閲覧表や連絡ノートを利用している。	送迎後に職員が全員集まれる時間の余裕がないことが多いので、必ずの打ち合わせはできていない。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12		連絡帳やモニタリングシートに支援計画の目標評価や記録をつけている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12		複数の職員でモニタリングや連絡帳の記録を参考にし、意見を出し合い見直しの判断をしている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	基本的な活動を組み合わせ、工作・運動・言語などの活動が行われている。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	3	担当者が出席している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12		学校の支援計画書を提出してくれたり、送迎時に対応したりしている。学校の予定表をコピーさせてもらい、送迎対応をしている。トラブルがあった際は電話対応もしている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	10	入所時に保護者から聞き取り、記入し保管している。	医療ケアが必要な児童がいない。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	4	入所時に保護者からアセスメントをとっている。各機関から書面にて申し送りがあることもある。	必ずの情報共有はしていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	6	必要に応じて行っている。	事業所卒業後の情報共有は必ず行っているわけではない。 他事業に移行する児童があまりいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	4	保護者を通じて連絡、情報を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	11		交流の機会はない。 長期休み機関や、休日の場合は療育時間に余裕があるので交流の検討をしても良いのではないかと。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	3	積極的に参加している。 区の子ども部会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12		送迎時や電話連絡、連絡帳などで当日の様子を伝えている。 面談を通して発達状況や課題などの共通理解を図っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	5	季節行事と同時に保護者会を開催し、保護者支援に繋がるプログラムを行った。	年に1回はペアレントトレーニングを行いたい が、 職員の人手不足で難しい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	1	契約時に説明している。 支援内容はアセスメント時や計画作成時の面談により行われている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		保護者からの相談があった場合、迅速に対応している。 連絡帳や送迎時、電話での対応で支援している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	4	行事の際に保護者会を開催した。	定期的に保護者同士の連絡の支援をしたい。 懇談会や保護者会などの機会を増やせるよう計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11	1	早急に対応し、その後発達ノートに記録、周知をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12		こぼんはうす便りを配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	12		写真掲載などは保護者に入所時に確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	1	都度対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	10		地域連携などは行っていない。 他者に障害児ということを思われたくない保護者様もいるの事実上としては難しい 保護者様への周知は十分にされていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	4	周知はしているが、具体的な行動はマニュアルを確認しながらだと動ける。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12		月に一度プログラムとして避難訓練を行っている。 職員がどう動くか確認しながら訓練している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	1	各自研修動画を視聴している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	2	契約時に説明している。 身体拘束を必要とする場合は保護者へ十分に説明し、了承を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	4	アセスメントシートの聞き取りで確認し職員間で周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		ノートや写真で周知、共有している。	